

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 8月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201450		
法人名	株式会社SOCサポート		
事業所名	グループホームシェアーハピネス		
所在地	広島市安佐南区伴中央2丁目8-10 (電話) 082-962-7597		
自己評価作成日	令和5年7月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490201450-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年7月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

認知症を呈している入居者様が、健康を維持し楽しんで過ごしていけるよう1日の流れがおおよそ決まっており、その中で共同生活を実施していきます。具体的には座位でできる運動やストレッチの実施、脳トレ、季節のイベント、園芸療法、レクリエーション、音楽療法などを実施しています。また、食事に関しては食事前の口腔体操を実施したり、地元のお米を食べていただいたり、1ヶ月に1~2回行事食を取り入れています。テラスガーデンを設置し、外で過ごしていただく時間を作り、園芸療法を取り入れるなどして自分でできることを維持していきながら楽しみを見つけて日常生活を楽しんでいただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者の尊厳やプライバシー、選択し意思決定ができる支援など丁寧なかかわりを意識した取り組みを展開している。そのための研修もしっかりと位置づけ実施している。声掛けにも不適切な言動とならないよう意識を共有し、個人の関心を引く会話などにて思いを把握しケアに反映させるなど利用者目線での取り組みとなっている。隣接するデイサービスの運動や活動を参考に一日のプログラムがあり、月1回の行事食や調理レクリエーションでは利用者が望む物を調理している。職員も意見を上げやすく、お互いに話や協力のできる関係を構築し、働きやすい職場風土も魅力となっている。主治医の迅速な対応や隣接する訪問看護事業所との連携、薬局など医療との関りも充実した体制がある。日々の支援や医療に安心できる暮らしとなるようサービスを提供している。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は「利用者が住み慣れた地域で安心して生活できるように専門的知識と経験に基づき誠意を持ったサービス提供をしていく」というものである。職員研修時に、理念の共有をし勉強会や事例検討を行うことで、具体的なサービス提供につなげている。	知識と経験に基づいたサービス提供を念頭に、管理者が年間の業務計画を策定し職員会議で周知している。職員にはレポートの作成も行い認識を深めている。昨年より戸外に出ることの目標を主任を中心に設定し、取り組んでいる。	理念の確認などの機会が少なく、理解や周知、実践での振り返りなどが十分とは言えない状況があります。理念の理解がより一層深まる取り組みを期待します。又、そこから職員の個別目標など設定し検討するなど、サービスの向上、個人の資質向上になることを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ感染拡大があったため積極的な交流は行ってなかったが、感染が落ち着いてからデイサービスのイベントに参加したり花見に出かけたり、農作業の様子を見学したりと少しずつ地域との交流を増やしている。	近隣住民との挨拶や会話は日頃より定着している。活動はコロナ禍にて控えていたが情勢に合わせ軽減を図り、隣接するデイサービスのイベントへの参加や花見ドライブに出かけ車内から景色を眺めた。花を植えよう会の地域ボランティアによる敷地内の花植えなど交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現時点では、事業所からの発信するような地域貢献につながる活動はない。近い将来に認知症についての相談を受けられるような体制を作っていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍のため法人内職員及び利用者のみで行っており、聞き取りにて意見をいただきサービスに生かしていた。新型コロナウイルスが5類感染症となったため次回より利用者家族や地域の方に参加していただき意見交換を行う予定である。	コロナ禍のため、各関係者へは資料を送付にて意見を聴取し、法人内職員及び利用者の参加のみで実施を継続している。ユニット間で相互の取り組みを参考とし、事故報告の内容や改善策を詳細に報告している。同業者の参加もあり、管理者は他の事業所運営推進会議にも参加している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	業務上に疑問がある点があれば、その都度広島市に問い合わせ適切なサービスを提供できるように努力している。開設時は、市町担当者と連絡を取り事業内容について説明することがあったが、現在は具体的な協力関係を築くような取り組みはない。	介護保険での解釈や業務上の質問には電話連絡にて市の担当者と確認している。コロナ禍では市や保健所に協力を得ながら取り組みを行っている。市からは生活保護の相談を受けたり、適宜連携を図り協力関係の構築に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を定期的実施し、参加できなかったスタッフには資料を配布し内容説明を行っている。必要に応じてレポート課題提出しスタッフの虐待防止に対する理解を確認。フロアやテラスは施錠せず外に出たい希望があれば散歩に出かけたりと、気分転換を図るようにしている。	研修計画にて身体拘束防止に関する内容のテーマを決め、三か月毎に定期的に研修会を実施している。言葉遣いに関して精神的な虐待について学び、不適切なケアにならないように日々のケアに意識的に取り組み、声掛けや接遇などの利用者支援にも反映している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修では身体拘束の研修同様に具体的な事例を挙げ、必要に応じてレポートを提出をしてもらっている。スタッフ間でも言葉遣いや虐待につながりかねない対応等がないか話し合い気になることがあれば注意をし合っている。身体的だけでなく精神的な虐待を与えることないように配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	社協のパンフレットを各フロアに配置し必要に応じて説明をしている。必要性がある場合や問い合わせがある場合は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、出来るだけ詳しく事業内容を説明し理解してもらっている。重要事項説明書や契約書の内容だけでなく、利用料についてや緊急搬送時の対応、重度化・看取りの対応、退所時についてなど細かく説明し、不安や疑問がないか確認し、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所された時や担当者会議等で家族の個々の要望を伺い、できる範囲で取り入れている。また、会社の携帯電話にいつでも連絡いただけるような環境を作っており、いつでも家族が意見や要望を伝えられるようにしている。	来所時やケアプラン作成時などの機会にて家族の意見や要望を確認している。高齢の家族の受診を支援することの難しさに職員で対応するなど様々に対応している。利用者の食べたい物の意向を毎月行事食で取入れ、お好み焼きを作るなどしている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全員が参加する職員研修を定期的に行い、また主任ミーティングは頻回に実施。業務内容の確認と見直し、意見交換を行い、より良いサービスを提供できるよう業務内容の改善を図っている。申し送りを1日2回実施し職員が意見できる機会を設けている。	職員の伝達、気付きノートを活用し、日頃から思いや気づきを気軽にあげ共有している。職員面談は随時行う形であり、主任に相談しやすい体制も浸透している。勤務や有給休暇などの希望にも職員同士で協力しながら調整を行っている。テラスの活用も職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	主任と管理者とで頻回にミーティングを行い職員個々の働き方を評価、勤務態度を給料へ反映している。個々の生活状況に応じて勤務体制を検討し働きやすくなりやすいある就業環境を作るように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	主任と管理者とで頻回にミーティングを行い職員個々の現場での働き方を評価、また毎日2回の申し送りを実施し、説明能力や入居者様の1人1人のケア対応する点など確認している。外部での研修の受講希望がある場合は研修支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修等にて同業者との交流する機会はあるものの、相互訪問や勉強会を実施するような活動は行っていない。今後運営推進会議での交流を通して、意見をいただきながら運営上のサービス向上させていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	普段の会話を本人の言葉をそのまま用いて記録に残し、どのような思いがあるか不安があるかをスタッフ間で共有している。本人の意向やご家族の意向をできる限り実現していける様に周知し取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	新型コロナウイルスが5類の扱いとなり、徐々に面会の機会を作っている。日々の生活の様子や変化などがある場合はその都度ご家族に連絡をしている。施設での生活やご家族の目に触れない部分に関しては、少しでも普段の様子を見ていただけるように毎月「ハピネス通信」を発行している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現状の不安、生活面、健康面等の状況を把握し何が必要か見極め専門職等の意見も参考にし多角的に判断している。また、認知症の症状がどの様な状態であるか医師の診断や画像所見も参考にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	1人1人の個性や生活歴を把握し、ご自身で出来ることは見守りながら本人にさせていただき、出来ないことは尊厳を維持しながらサポートしている。心に寄り添って暮らしていける信頼関係作りを努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者様が安心して生活できるように、また薬の変更や体調の変化などがあった場合はご家族に連絡・報告をし、時にはご家族のご協力を得て利用者様をサポートできる関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様のこれまでの生活を傾聴しご本人やご家族の希望にできるだけ沿って散歩や面会を行い支援に努めている。個人情報保護のため、家族以外からのお問い合わせに関しては本人とキーパーソンの許可を得てからの対応となっている。	利用者の生活背景をしっかりと聴き、個人を理解することを重視している。コロナ禍でもテラスを活用し面会を継続したことも利用者へ良い影響があり、孫など家族に会えて落ち着かれたり、併設のデイサービスへ友人に会いに行くなど繋がりを持ちながら生活ができるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>個々の性格や言動など細かく把握した上で、共同生活をより楽しく過ごせるように利用者様の座席の配置など配慮し人間関係が円滑になる様にスタッフが見守り関わり合えるように努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>グループホームの利用が終了した後も、必要に応じて情報提供を行なっている。ご家族や本人が希望があれば、その後の様子など電話のやりとりを行う。</p>		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居者様の希望や思いを傾聴し意向に添えるように努めている。自ら発言やコミュニケーションを取る事が難しい場合は、レクリエーションや音楽療法、園芸、散歩、食事などを通して昔を思い出したり、得意不得意を行動から読み取る様になっている。</p>	<p>利用者の特性の理解に努めている。新聞記事を読み聞かせするなど、興味を引き付け、関心が持てる会話をする事で一人ひとりの考えを知る機会を作り、思いや意向の把握に繋げている。担当職員が得る情報や日々の関わりで確認した内容は職員ノートに記載し情報共有している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居者様の生活歴や今までの暮らし方をご家族から情報を収集した上で、グループホームでの生活環境を整えている。安心してその方らしい生活ができるように、馴染みがあるものを居室に置いたり新しい生活環境に馴染めるように努力している。</p>		
25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。</p>	<p>日々の身体状態、健康状態を24時間把握し記録を残しスタッフ間で情報共有している。食事量やバイタルだけでなく、レクリエーションや毎日行う体操を通してできることできないことを把握し評価している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人、ご家族から情報収集した上で、スタッフと主任、ケアマネージャーが話し合い、その時々々の現状に応じた介護計画を作成するよう努力している。</p>	<p>ケアプラン作成時には家族に在所してもらい利用者を交え希望を聞いている。日々の支援情報や担当者から意見を出し、計画作成者が原案を立案し職員全員で確認を行っている。現状に即したケアプラン作成に取り組んでいる。担当者がモニタリングを行いケアプランに反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に入居者様の発言や言動を記入し、また表記の難しい表現や情報もスタッフ同士が話し合い、情報を共有できるようにしている。スタッフ間だけではなく、医師や管理者、別ユニット主任の意見も取り入れながら多角的に見直しを行なっている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個別に運動を行ったり散歩を行ったりと、一人一人の心身機能にあったサービス提供をできる様にしている。対応が変わる場合は各フロア主任や管理者、主治医、ご家族と意見交換を行いその時に適した支援ができるようにしている。これからも入居者様にあったサービスについて考え最善を尽くせるよう都度話し合っていく。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>希望されたり心身的な負担がない方に対しては、外出支援をしている。桜が咲く季節は花見に行ったり、田植えの様子をみたり、隣接しているデイサービスのイベントに参加したりと、地域の特性を生かして施設外の活動も参加し豊かな暮らしを楽しめるように工夫している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医との関係を築き健康状態の情報提供を細かく行っている。ご家族が対応できない場合は、ご家族の代わりにスタッフがサポートしている。急変時にも対応していただけるように、医療連携に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始時に協力医へ主治医を変更することが多い。既往歴や疾患によっては他院に主治医を依頼する場合もあり、情報提供や医師からの紹介状、家族の受診支援を得ながら取り組んでいる。薬局薬剤師が薬を持参し、訪問看護にて薬を各自に整えるなど医療連携を図っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	同じ法人の訪問看護の看護師に常時日頃状態報告・健康管理・相談・助言をしていただき、個々の入居者様が適切な医療や受診、看護が受けられるような状態である。訪問看護が休みの時には電話での対応をしてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員と連絡をとり連携し、入院の際には相談員の方にグループホームでの生活状況についての情報をしっかりと伝達している。退院1週間前には様子をみに病院まで伺う。退院の際には、入院中の情報を伝達してもらい、退院後のグループホームでの生活介護に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期における対応や方針の共有と説明を実施し、身体状況の変化に応じて個別に話し合いの機会を設けている。看取り期の医療・ケアの指針についてガイドラインに沿って家族の意思を確認。定期的に見直しを行い、他職種で情報共有し支援できるように取り組んでいる。	重度化した場合における対応及び看取り介護に関する指針を説明し実施している。今年度は1件看取りがあり、看取り期の医療・ケアの指針についてガイドラインに沿って家族の意思も確認し思いを反映させている。思い出の物を用意するなど一人ひとりを尊重する姿勢で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時の対応を確認、対応の仕方を更新している。マニュアルを作成し、緊急時にすぐに誰でも対応できるようにしている。緊急時に主任・管理者がすぐに対応できるように会社の携帯電話を用いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、スプリンクラーの設置及び消防への自動通知で対応し、年に2回防災訓練を実施している。BCPを元に、地震や水害の場合は避難方法を選択することになっている。地域との協力体制は特別には築いていない。	年2回消防訓練を実施している。災害別のマニュアルやBCP(業務継続計画)を作成し、水害の想定には2階への垂直避難を検討し訓練を行い有事に備えている。緊急連絡簿も掲示するなど即座での対応ができる体制を整えている。備蓄も水を保存し、食料は業者と提携し備えている。	防災訓練に夜間を想定した訓練の実施がありません。火災や災害はいつ起こるかわからないことを想定した訓練の必要性を考えます。又、地域の方との協力関係も築いていくことを期待します。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個人を敬う気持ちを持ち、言葉選びを慎重に行い、その方の尊厳の確保しコミュニケーションをする様心がけている。特に排泄ケアに関しては、プライバシーを損なわない言葉かけや対応をするように努力や新人教育をしている。	研修を年間複数回計画し、個人を敬うことや声かけや会話にも言葉選びを慎重に行い、尊厳を保つコミュニケーションを意識している。言葉掛けが不適切であれば管理者や主任がその都度注意し促しを行っている。又、利用者が選択でき自己決定が出来る言葉掛けを行うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者様が気兼ねせず、希望や思いを発言できるよう、日々の会話やケアを含む生活の中で信頼関係を築いている。自己表出が難しい場合は、職員が選択肢を作り選択肢の中から自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者様それぞれの体調や気分を優先して、個々のペースに合わせて行動を制限せず本人の意志で選択できるようにしている。意思決定が自らできない方に関しては、本人の様子をよく観察し無理強いくることなく過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個性を大切に、本人の好む服装や身だしなみができる様に支援している。また家族に好みの服を持参して頂いている。定期的に理美容を実施し本人が好むヘアスタイルで過ごして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に1度、季節を感じられ目でも楽しむことのできるような行事食を提供している。嗜好調査や日常の会話から、情報収集し可能な限り提供できるように努めている。食後は分担して食器ふきをしていただく、干し柿を作るなどできることを生かしたお手伝いをして頂いている。	利用者の食べたいものや希望するメニューを毎月の行事食や調理レクなどにて提供している。そうめんや土用の丑の日は鰻弁当を注文したり意向の反映がある。誕生日にはケーキを用意している。食器拭きなどできることを積極的に行ってもらおうようにしている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事量・水分摂取量を記録に残し把握し健康管理をしている。少ない場合は訪問看護・嘱託医に相談して、その都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身で口腔ケアができる方は実施して頂いている。介助が必要で残歯がある場合はご自身で1度磨いていただいた後にスタッフが口腔内チェックをして仕上げ磨きを行っている。必要に応じて訪問歯科のアドバイスを頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の意思表示ができる方はその都度対応し見守りを行っている。困難な方には定期的な声かけ誘導をするとともに排泄のサインを見逃さないように表情観察を行っている。トイレ内では声かけにてご自身のできる所はやって頂き介助が必要な所はサポートしている。	排泄チェック表を作成し、予定表に詳細に記載し個人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。意思表示に都度対応し、困難な方には行動観察を行い排泄のサインを見逃さないように注視している。体調不良などその時の状態に合わせてポータブルトイレを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分摂取の時間を決めてしっかり飲んでいただいたり、朝と夕には排便がスムーズに行える様体操をして腸の運動を促している。毎日排便の状況をチェックし、状態に応じて医師や看護師と相談。指示薬を適切な容量・使用方法を守り服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日の設定はしているが、ご本人のその他の気分や体調不良・バイタルに問題がある場合は、入浴日を変更している。個々の入浴時間はゆっくりと確保していて、自分でできることはして頂き、できない部分をお手伝いしている。浴槽入浴時は入浴剤を使用しリラックスしていただけのようにしている。	週2回入浴の機会を設け、午前中に入浴を行っている。長湯などの意向にも体調管理をもとに個人の好みや思いを汲みながら入浴できるように支援している。リフトを備え、適所に手すりの設置を行い安全にも配慮し安心して入浴できる環境を整えている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	比較的フロアにでて過ごされている方が多いので、13時頃より午睡の時間を設けている。夜は個々に合わせて就寝していただいている。就寝中の居室の温度の確認や睡眠がしっかりとれているか、定期巡回し確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルを個々に作成しており、変更・中止になった場合にはスタッフ間で情報共有ができる様に連絡帳に記録している。体調・行動・睡眠状態・食事摂取量などに変化があれば、主治医・看護師に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食後の食器拭きや洗濯物畳見など、役割を持って頂いている。散歩が好きな方は一緒に外出したり、お花が好きな人に対しては植木をしたり花を飾ってみたりなどと楽しみごとの支援をしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスが5類の扱いになったので、これから外出支援を増やして行きたいと計画である。天気がいい日々はベランダやテラスに出てお茶をしたり、花を見たり散歩するなど支援を行っている。	コロナ禍にて感染症対策から例年通りの外出はできていない。その中でも今年花見外出を行うなど情勢緩和をみながら行い、今後も外へ出る意識を持ち計画を検討している。日頃の散歩も利用者に合わせて設定し毎日や日にちを分けて実施している。家族の協力を得てお寺の行事に行った事例がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現時点では認知機能低下により金銭管理ができる方がいないため、所持していたかないように統一し入居前に説明している。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>各ユニット主任が会社携帯電話を所持し、テレビ電話ができるようにしている。また、希望された方には携帯電話で日々の様子などの写真を送ったりしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有の空間はいつも清潔を保つように心がけている。トイレや居室にはわかりやすく表札を付けわかりやすいようにしている。朝はカーテンを開けてしっかりと日を入れ、日光浴をさせていただいている。各居室に室温計を置き心地よく過ごしていただけるよう管理している。</p>	<p>リビングや居室は清潔を意識し掃除を徹底している。衛生面や感染対策目的にて、電解水精製器を設置している。ステンドグラスが施され、室内も明るく開放的な空間となっている。居室やトイレには分かりやすい表示をしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>各居室があり、ご自身で自由に共有空間に行き来し過ごしていただいている。共有空間では気の合う人同士を隣にしたり、嫌な思いをしない様に配慮している。そのためフロアで過ごされている方が多くおられる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には、馴染みのあるものを置いたり、写真を飾ったりとご本人やご家族の希望に沿ったものを転倒の危険がない範囲で設置している。居室ごとに壁紙やカーテンの色が違い、入居前に好みの部屋を選んでいただいている。</p>	<p>各居室ごとに壁紙が異なり、それぞれの入口にステンドグラスが施され、夜間も和める明かりが入るなど圧迫感のない居室となっている。居室カーテンの色に合わせ利用者の使うタオルもカーテンと同色を提供し、分かりやすくしている。自宅での生活を確認し環境を整えている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全に歩行や車椅子が通れるように施設が設計してあり、テーブルや椅子などの配置も歩行や移乗動作の妨げとならないように動線を確認している。部屋に迷わずに行けるように標識を手作りいただいたり、写真を貼ったりと工夫して安心してご自身の部屋に入っただけのようにしている。</p>		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念は「利用者が住み慣れた地域で安心して生活できるように専門的知識と経験に基づき誠意を持ったサービス提供をしていく」というものである。職員研修時に、理念の共有をし勉強会や事例検討を行うことで、具体的なサービス提供につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	コロナ感染拡大があったため積極的な交流は行ってなかったが、感染が落ち着いてからデイサービスのイベントに参加したり花見に出かけたり、農作業の様子を見学したりと少しずつ地域との交流を増やしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現時点では、事業所から発信するような地域貢献につながる活動はない。近い将来に認知症についての相談を受けられるような体制を作っていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ禍のため法人内職員及び利用者のみで行っており、聞き取りにて意見をいただきサービスに生かしていた。新型コロナウイルスが5類感染症となったため次回より利用者家族や地域の方に参加していただき意見交換を行う予定である。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	業務上に疑問がある点があれば、その都度広島市に問い合わせ適切なサービスを提供できるように努力している。開設時は、市町担当者と連絡を取り事業内容について説明することがあったが、現在は具体的な協力関係を築くような取組みはない。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修を定期的実施し、参加できなかったスタッフには資料を配布し内容説明を行っている。必要に応じてレポート課題提出しスタッフの虐待防止に対する理解を確認。フロアやテラスは施錠せず外に出たい希望があれば散歩に出かけたりと、気分転換を図るようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修では身体拘束の研修同様に具体的な事例を挙げ、必要に応じてレポートを提出をしてもらっている。スタッフ間でも言葉遣いや虐待につながりかねない対応等がないか話し合い気になることがあれば注意をし合っている。身体的だけでなく精神的な虐待を与えることないように配慮している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社協のパンフレットを各フロアに配置し必要に応じて説明をしている。必要性がある場合や問い合わせがある場合は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について説明できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、出来るだけ詳しく事業内容を説明し理解してもらっている。重要事項説明書や契約書の内容だけでなく、利用料についてや緊急搬送時の対応、重度化・看取りの対応、退所時についてなど細かく説明し、不安や疑問がないか確認し、納得して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族が来所された時や担当者会議等で家族の個々の要望を伺い、できる範囲で取り入れている。また、会社ケータイにいつでも連絡いただけるような環境を作っており、いつでも家族が意見や要望を伝えられるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全員が参加する職員研修を定期的に行い、また主任ミーティングは頻回に実施。業務内容の確認と見直し、意見交換を行い、より良いサービスを提供できるよう業務内容の改善を図っている。申し送りを1日2回実施し職員が意見できる機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	主任と管理者とで頻回にミーティングを行い職員個々の働き方を評価、勤務態度を給料へ反映している。個々の生活状況に応じて勤務体制を検討し働きやすきやりのある就業環境を作るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	主任と管理者とで頻回にミーティングを行い職員個々の現場での働き方を評価、また毎日2回の申し送りを実施し、説明能力や入居者様の1人1人のケア対応する点など確認している。外部での研修の受講希望がある場合は研修支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修等にて同業者との交流する機会はあるものの、相互訪問や勉強会を実施するような活動は行っていない。今後運営推進会議での交流を通して、意見をいただきながら運営上のサービス向上させていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に、生活歴や本人や家族の考えなど細かく情報収集を行い、また入所前に施設での生活に対して要望などを聞いている。認知機能の低下により理解が不十分である場合は、キーパーソンやケアマネージャーからの情報収集をしっかり行う。表出が難しい利用者に関しては表情や反応を見て丁寧に対応するように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>新型コロナウイルスも5類となり、面会希望のある家族に対しては短い時間ではありますが面会していただいている。1ヶ月に1回施設での様子の報告、体調の変化、転倒などあった場合はすぐに電話報告し、回復の状態などもこまめに報告を行なっている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービスのご利用前に家族の要望や本人の要望を傾聴し1人1人にあった支援を行なっている。バイタルなどの基本的な健康管理を行い、主治医や理学療法士の指示を仰ぎ、毎日の体操やレクリエーションに取り組み健康の維持、身体機能低下予防を図っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>サービスを提供するだけでなく、共同生活の一員として、日常生活の洗濯畳みや食器拭き、掃除など個々のできることを手伝っていただき、お互い支え合いながら生活している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>各フロアの主任が会社の携帯を持つことで、今まで施設には電話をかけにくいと言われていた家族が気兼ねなくいつでも電話をしていただける様になり、以前より家族と連絡取り合うことが多くなった。薬の変更や体調の変化などがあった場合はご家族に連絡・報告をして密にコミュニケーションをとっている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>会いたい友人等には電話で話をしたりしている。家族以外の方からの問い合わせに関しては個人情報保護の観点から、ご家族に確認した上での対応となっている。家族の面会は希望時に行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他人同士が生活をするためトラブルあるが、一緒に体操をしたり、レクリエーションをしたりとみんなで楽しいことを共有したり、フロアでの席に配慮したりと、利用者同士の関係性が保たれるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが利用終了しても、困ったことや不安な時はいつでも連絡していただくような関係性をご家族と作っている。電話等があったときはその都度対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の中で、利用者の会話や表情、行動を意識して観察し、想いや意向などを把握できる様にしている。意志がしっかりと表出できる人に関しては、話を聞き意向を聞いている。帰宅願望のある方に対しては、ご意向に答えられないことがあり説明、傾聴しご家族に相談したり対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前のアセスメントシートやケアマネや家族から聞き取りを行い、施設入所されてからは本人様から話を聞き今までの生活歴や暮らし方を情報収集する。その上でグループホームでの生活環境を整え安心してその方らしい生活ができるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の過ごし方や様子を詳しく情報収集し記録に残し、スタッフ間で共有している。食事量やバイタルだけでなく、レクリエーションや毎日行う体操を通してできることできないことを把握し評価している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族、本人から情報収集し、アセスメントを行い検討した上で計画を立てている。支援のあり方や計画が問題ないか職員間でも話し合いモニタリングをし見直しを行なっている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人記録に入居者様の発言や言動を記載し、スタッフ同士が話し合い情報を共有できるようにしている。介護計画に基づき支援を行なっているが、見直しが必要な場合はスタッフで意見を出し工夫をし実践している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ変わるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者の健康状態やご家族の意向などは、状況に応じて変わることもあるので、その都度傾聴し柔軟に対応している。対応が変わる場合は各フロア主任や管理者、主治医、ご家族と意見交換を行いその時その時に適した支援ができるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>桜が咲く季節は花見に行ったり、田植えの様子をみたり、コスモスを見に行ったり、隣接しているデイサービスのイベントに参加したりと、地域の特性を生かして施設外の活動も参加し豊かな暮らしを楽しめるように工夫している。買い物等の外出はできておらず。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>身体状況に変化あった場合や嘱託医往診時に指導があった場合は家族と情報共有を行い、受診が必要な場合は事前に家族に連絡。情報提供しご家族のご意向を確認した上で適切な診断ができる様に支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	同じ法人内に訪問看護ステーションがあり、事業所が隣接しているため24時間何かあればすぐ連絡でき、常時日頃状態報告・健康管理・相談・助言をしていただき、個々の入居者が適切な医療や受診、看護が受けられるような状態である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人、家族の同意をえた上で、施設での様子を情報提供し、入院時の疾病によって施設でどのような対応ができるか話し合いスムーズな退院支援、元の生活へ移行できるように医療機関の相談員や看護師さん等との連携をとっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期における対応や方針の共有と説明を実施し、身体状況の変化に応じて個別に話し合いの機会を設けている。本人とも精神的な負担にならない範囲でどのように家族にして欲しいか、本人がどの様にしたいか要望を聞いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	日中、夜間等職員の体制に応じて、マニュアルを作成し、職員同士の協力体制を作っている。救急対応を何回か経験しているが、実際に急変した場合慌ててしまいマニュアル通りにいかないことがあり、その都度話し合いや、見直し作り直しを行なっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回防災訓練を行なっている。時間をかければ車椅子での移動の方も、2名対応で可能ではあるが、実際の火災時に本当に可能か出火場所や出火時の時間帯など細かくシミュレーションを行い検討し、利用者さんの状態によっても変わるためその都度検討が必要である。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉遣いや対応時の態度について、人を敬う気持ちを持ち年長者への失礼がないよう、その方の尊厳の確保しコミュニケーションをする様心がけている。排泄時やおむつ交換時は共同生活でありプライバシーを損ねかねないため、他利用者にはわからないように気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	まず1番に本人の意見を聞く様にしている。表出できない場合や疾病の関係上希望通りにならない場合は、なるべく要望にそえるよう工夫している。今一番希望が多いのは、美味しい者が食べたいとのことで月1回行事食をしたり誕生日にはフルーツ沢山乗ったケーキを購入している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	認知機能が低下し日時の見当識や短期記憶が低下することで、次に何をすればいいのかわからない利用者が多い。そのため1日の流れを作り体操やレクリエーションなどを組み込んでいる。しかし本人が参加したくない場合等には参加してもらわず本人の意向を1番に考えている。花が好きな方には散歩に一緒に行ったり気分転換している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝の身だしなみについて、本人に鏡を見て髪や服装を整えていただきできていないところは職員がお手伝いさせて頂いている。洋服は自分が着たい服を選んでいただき、定期的に理美容を行なっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	日々の食事はカロリーやバランスが取れたものでメニューが決まっているので、月1回は行事食の日を設け、食べたいものを聞き食べていただけるように工夫している。食後は分担して食器ふきをしていただく、干し柿を作るなどできることを生かしたお手伝いをして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事や水分の摂取量を記入し把握し、十 分ではない場合は声かけを行い飲食して 頂いている。また量について変化がある 場合は、嘱託医や訪問看護に相談し健康 管理に気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	歯や口腔内の状態が一人一人の状態に応 じた援助を行っており、必要に応じて 訪問歯科へ相談している。日々の口腔ケ アについてはまずは自分の力で行って いただき、不十分な場合は支援を行って いる。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄表にて排泄の頻度や状態を確認して いる。排便コントロールに援助が必要な 場合は、嘱託医や訪問看護にその都度相 談している。認知機能の低下により排泄 の仕方がわからなかったり失敗がある場 合は本人の尊厳を保ち混乱されないよう に対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表にて排便状況を把握している。嘱 託医と訪問看護に指示を仰ぎどうしても 出ない場合は対応して頂いている。それ 以外に体操や水分補給を徹底し排便が促 せるように支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴前にはバイタル測定や自覚症状の確 認を行い体調管理をした上で入って頂い ている。入浴剤を使用しリラックスして いただきながら、1名ずつゆっくりと入 浴して頂いている。脱衣所の温度や入浴 前後は水分補給をし脱水にならないよう に体調面にも配慮している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中でも椅子に座ったままとうとされている場合は横になって頂いたり昼食後は各居室で横になりゆっくり過ごして頂いたり、無理のないように過ごして頂いている。夜は個々の寝たい時間に居室へ戻ってもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の服用のについて日付、名前2名で確認し声に出し確認。口の中まで薬を入れ服薬できたか確認している。服薬後の体調変化ないか往診時に嘱託医に相談し報告している。薬の用量用法についてわからない場合はその都度薬剤師に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食後の食器拭きや洗濯物畳見など、役割を持って頂いている。散歩が好きな方は一緒に外出したり、お花が好きな人に対しては植木をしたり花を飾ってみたりなどと楽しみごとの支援をしていただいている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルスが5類の扱いになったので、これから外出支援を増やして行きたいと計画中である。天気がいい日々はベランダやテラスに出てお茶をしたり、花を見たり散歩するなど支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現時点では認知機能低下により金銭管理ができる方がいないため、所持していたかのように統一し入居前に説明している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話をかけて欲しいと依頼があれば連絡し、話をさせていただいている。テレビ電話にも対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>毎月の季節の壁画など作り、その季節など楽しんでいただいている。大きなカレンダーを月日がわかるようにしている。トイレは汚れたらすぐに綺麗にし清潔を保っている。施設の前には季節ごとの花を植えており、季節を感じながら楽しんで過ごしていただけるよう工夫をしている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>個々の居室があるので、寝たい時1人になりたい時は居室で過ごしていただく。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室に家族の写真や人形、布団など今まで使用していたものを使ったり見て家で生活しているような居室にしている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>トイレや居室の場所などは大きくわかるようにし、居室には本人の写真を貼ったりし場所を間違え安全に歩行や移乗ができるように設計されており、廊下やフロアにはものを置かないように動線を確保している。</p>		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームシェアーハッピーネス

作成日 令和5年8月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	入居者様に認知症の不穏症状が強く出た場合、その他の入居者様が影響され一人ひとりのペースが保てないことがある。	皆様が穏やかに生活できるように、不穏時のケア方法を学び実践に活かす。	認知症についての勉強会を行う、事例検討やケアの目標設定を行い全職員の質の向上を目指す。	半年～1年
2	35	夜間を想定した訓練の実施がなく、いつ起こるかわからないことを想定して災害対策を実施する必要がある。	訓練の実施とBCPの見直しを行う。	色んな勤務帯の職員の意見を聞きながらBCPを見直し、実際の場面を想定しながら訓練を行う。	3ヶ月 (年間を通して)
3	3	運営推進会議を7月に実地開催し、知見者の参加はあったが他事業所はまだない。	他事業所の方に参加していただき、交流を図りサービス向上に活かす。	他事業所の方が参加しやすい時間に設定する他の事業所の運営推進会議に参加し交流を図る。	6ヶ月
4	1	理念の共有を主任や管理者レベルではできているがその他の職員とは確認の機会が少なく実践での振り返りが不十分である。	定期的に理念の確認を行いできているか振り返りの機会を作り自己評価した後、個別の目標を設定する。	研修会議にて理念の確認アンケート形式で実践の振り返りを行い、個人目標を設定し達成したかどうかを再度確認していく。	1年
5	18	コロナ禍により外出の機会が少なくまた身体機能の低下や高齢化により外出ができない場合や外出の意欲がないことがある。	外に出る機会を増やす。	テラスに出たり、外を散歩する機会に加え、お出かけデーなどを設け買い物などに行く。	6ヶ月
6	2	スタッフと地域の人との交流はあるが、入居者様と地域の人との直接的な交流はない。	地域の人との直接的な関わりの機会を作る。	地域の行事に参加したりボランティアに来ていただく機会を作る。	1年
7	6	家族との付き合いが多い方と家族との関わりの少ない方と様々ある。	ご家族に施設の他利用者様の様子や運営の理解もしていただきながらできるだけ意見やご要望にお答えする。	意見や要望を記録に残し職員間で共有し実際に行えるか話し合う。 (共同生活で不平等にならないように配慮)	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。